

令和6年度 教科研修会 I に向けた授業の構想

保健体育科

1 保健体育科の研究テーマ

運動についての課題を合理的に解決する力を高める学習の在り方

2 保健体育科として育成を目指す資質・能力の受け止め (研究テーマに示す力が高まっている生徒の具体の姿)

- ・ 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている姿 (1, 2 学年、球技領域)
- ・ 提供された練習方法から、自己の課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる姿 (1, 2 学年、器械運動領域)
- ・ それぞれのダンスに応じて、表したいテーマにふさわしいイメージや、踊りの特徴を捉えた表現方法を見付けている姿 (3 学年、ダンス領域)
- ・ 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている姿 (3 学年、球技領域)

3 単元名・学年 「アタック・プレルボール」・1年

4 単元の概要 (全 15 時間扱い 本時は第 7 時)

単元の学習問題

得点につながる攻撃をするには、どのように連携したらよいだろうか。

単元展開

時間	学習活動
第 1 時 ～ 第 2 時	<p>◆ <u>球技学習のガイダンスを行い、球技の課題を解決するための 3 つの視点</u> 「ボール操作」「ボールを持たないときの動き」「意思決定」を知る</p> <p>◆ <u>目指すゲームの様相について見通しをもち、「ボール操作」の技能練習を行う</u></p> <p>【単元の学習問題】 得点につながる攻撃をするには、どのように連携したらよいだろうか。</p>
第 3 時 ～ 第 6 時	<p>◆ <u>易しいボール状況において、連携して攻撃を組み立てる</u></p> <p>【学習問題】 ネット際でアタックを打つにはどのようにしたらよいだろうか。 【学習課題】 投げ入れのサーブに対して、準備姿勢をとり、ボールの落下点に入ってレシーブをしよう。 【学習課題】 アタックが打ちやすいセッターの位置に着目してフォーメーションを考えよう。</p>
第 7 時 (本時) ～ 第 9 時	<p>◆ <u>難しいボール状況においても、連携して攻撃を組み立てる</u></p> <p>【学習問題】 相手のアタックをレシーブするにはどのようにすればよいだろうか。 【学習課題】 相手のレシーブがネット際に返りそうなときは、コートの後ろまで下がって、アタックに備えよう。 【学習問題】 レシーブが乱れたときは、どのように連携すればよいだろうか。 【学習課題】 乱れたボールが飛んだ方向を見て、セットやアタックのボール操作を変えて、相手コートに返球しよう。</p>
第 10 時 ～ 第 15 時	<p>◆ <u>チームの課題に合った作戦を考え、課題を解決する</u></p> <p>【学習問題】 チームの課題を解決しよう。 【学習課題】 「ボール操作」「ボールを持たないときの動き」「意思決定」からチームの課題を見付けて、課題解決の練習方法を選択しよう。</p>

保健体育科学習指導案

令和6年5月15日(水) 5校時 体育館

授業学級 1年B組(40名)

授業者 山本 一博

1 単元名 「アタック・プレルボール」

2 主眼 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している
相手のアタックをレシーブするにはどのようにすればよいかを考える場面で、相手のレシーブがネット際に返りそうなときは、コートの後ろまで下がって、アタックに備える練習をすることを通して、相手の打球に備えた準備姿勢をとることができる。 【E(1)イ】

3 単元の学習問題：得点につながる攻撃をするには、どのように連携すればよいのだろうか。

4 本時の位置(全15時間中 第7時)

前時：アタックが打ちやすいセッターの位置に着目して、フォーメーションを考えた。

次時：レシーブが乱れたときの連携の仕方について考える。

5 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言 評価	時間
導入	1 学習問題を確認し、学習課題を据える。	ア 相手からの易しいボールに対しては、攻撃につなげられる。アタックのように強いボールが来た時に、レシーブができない。 イ レシーブはボールの落下点に入ることが大切。アタックは、早く意思決定をしないとボールを持たないときの動きが間に合わない。 ウ 相手のレシーブがネット際に返りそうだったらすぐに動き出そう。	・前時の学習を振り返り、アのような反応から、学習課題を設定する。 【学習問題：相手のアタックをレシーブするにはどのようにすればよいだろう。】 ・イのような反応から、レシーバーがアタックに備えてコートの後ろに移動するのはいつがよいのか問う。 ・ウのような反応を受けて、学習課題を据える。	8分
		【学習課題：相手のレシーブがネット際に返りそうなときは、コートの後ろまで下がって、アタックに備えよう。】		
展開	2 チームごと練習をする。	エ 相手のレシーブがネット際に返りそうか見て、返りそうだったらレシーバーの2人が後ろに下がって準備姿勢をとろう。 オ サーブの易しいボールに対しては、ほとんどのレシーブがネット際に返されるから、それを見てすぐにアタックに備えて後ろに下がろう。 カ ただ後ろに下がるだけでなく、相手のボール見ながら下がったり、どんなボールでも対応できるようにすぐに準備姿勢をとったりすることがレシーブをする上で大事だ。	・練習方法を示範し、アタックに備えるためには、相手のレシーブがネット際に返るかどうかを見て意思決定することを全体で確認する。 ・コート内外を使って、2チームごと交替で練習を行い、コート外を使う場合は、レシーブの技能練習をするように促す。 ・練習後に、相手のアタックに対するレシーバーの動きについてチームごと振り返る場を設ける。	12分
	3 試合をする。	ク 相手のレシーブの様子を見て意思決定が早くできれば、ボールを持たないときの動きも連動して早くできるので、アタックに対するレシーブがよりやりやすくなりそうだ。 ケ 試合の中で、早く下がったり準備姿勢を取ったりすることで、何回か相手のアタックをレシーブすることができた。レシーブがうまくいけば、こちらの攻撃チャンスになるので、レシーブをする確率を高めたい。	・試合を行う中で、コート外の生徒がラインジャッジや記録、声掛けなどを行い、チームをサポートするよう促す。 ・早くコートの後ろに下がり、レシーブに備えているチームの良さを全体に広める。 【打球に備えた準備姿勢をとることができる。(観察)】	20分
終末	4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	コ 相手のレシーブ状況を見て、意思決定やボールを持たないときの動きが早くできると、アタックに対してレシーブができた。 サ レシーブのボールが乱れてしまうときがある。乱れたときにも、どうやって得点につなげていくか考えていきたい。	・本時の学習課題について成果と課題を振り返る。 ・サのような反応を受けて、次時は、レシーブのボールが乱れたときに、どう連携していくかの見通しを確認する。	10分